

みちのく会は東日本大震災、福島第一原発事故により北海道へ移り住んだ被災避難者の自助団体です。当会は、2011年4月23日に発足し、会員同士の自助、地域市民とのコミュニティの発生、それぞれが願う自立を目指し、様々な取り組みを行っています。

ホームページ: <http://michinokukai.info/>

ブログ: <http://ameblo.jp/coco-kara-hokkaido/>

メールアドレス: office@michinokukai.info

みちのく会札幌本部総会を行いました

日時: 2015年10月24日(土)

場所: 札幌市中央区南1条東2丁目大通バスセンタービル
2号館 札幌市若者支援総合センター 活動室1



【参加者】会長: 本間 紀伊子 / 副会長: 渡邊 恭一 / 副会長: 小祝美幸 / 会計: 熊田 麻衣子 / 会計監査: 森田 千恵 / 恵庭支部長: 小林 靖 / スタッフ: 荒 泰子 / スタッフ: 植木 幸子 / スタッフ: 武田 真佐美 / 会員の皆さま: 21名
【議事】議長: 副会長 小祝 / 議事録担当: 恵庭支部長 小林

2014年度 みちのく会 会計報告(熊田)

■収入の部

収入項目	26年度	摘要
前年度繰越	¥1,045,799	
缶バッチ収入	¥1,294,275	缶バッチ製作によるもの
寄付金	¥1,079,011	
助成金	¥1,852,342	タケダ・赤い羽根助成金
イベント会費	¥103,240	イベント会費・缶バッチ売上
雑収入	¥352	利息
事業収益(JCN)	¥800,000	
収入計	¥6,175,019	

■支出の部

支出項目	26年度	摘要
印刷製本費	¥277,440	会報などの印刷代・配布物の印刷代
人件費	¥2,594,415	ボランティア評価・事業にかかわる人件費 ・缶バッチ製作評価
旅費交通費	¥811,000	スタッフ分交通費、出張代、飛行機代
通信費	¥121,550	電話代・切手代
水道光熱費	¥223,861	
賃借料	¥150,000	家賃として 2014年4月~2月迄1万 アシストと按分 3月全額
保険料	¥5,088	各保険加入料
協力費	¥147,161	寄付金の分配
雑費	¥263,550	茶話会のお菓子代・飲み物代・備品購入
	¥280,338	缶バッチの材料購入
	¥27,510	振り込み手数料
イベント支出	¥244,554	アンパンナイトの食材購入費
支出計	¥6,175,019	
次年度繰越金	¥1,028,552	

2015年度上半期の活動報告(藤本)

・みちのくカフェ(茶話会について)

月寒事務所にて月1回のペースで、会員や北海道民の方からの持ち込み企画を基本としてハンドクラフト講座やそば打ち見学会などを開催している。参加人数は減少傾向ではあるが、平日は仕事があって参加できない、月寒まで来るのが大変という方も多い。その声に応えるため、今後は月寒事務所外の場所での開催を増やし、また平日は仕事で参加できない会員のために週末の開催も企画している。

・有償ボランティアについて

昨年度に比べ有償ボランティアをお願いする頻度が減ったが、缶バッチの注文がたてこみスタッフだけでは追いつかないときに缶バッチ作りをお願いしている。昨年度お子さん連れて有償ボランティアに来てくださった会員さんの中には、お子さんの入園入学などを機に仕事に就かれた方も多く見られ、時間の経過やお子さんの成長とともに、それぞれのペースで生活再建に向け前進していると感じられる。

・ヒアリングアンケートについて

10/19現在、277世帯に電話連絡、うち110世帯から回答を得られた(留守・不在86世帯、道外避難者・退会・不明81世帯)。留守だった世帯を含め残りの会員にも順次お電話し、年内終了を目指す。

本部からの報告

震災当初から避難生活を応援して頂いていた支援団体も活動が縮小傾向にある北海道の状況の中、震災当事者の自助団体である「みちのく会」も同じ状況で激変しています。

課題は率直に言えば「直接事務運営に携わる役員の不足」です。今年度になって、常駐していたスタッフの「帰郷」「就職」「家庭の事情」や、役員&支部長が仕事都合の多忙が重なり、震災避難後5年目となって、会員が生活基盤をそれぞれが築いてきている中、常時自由に活動できる役員スタッフは現在不足し、今後の会の運営体制を見直さなければいけない状況になりました。ですので、運営業務上、会議や宿泊を伴う出張などに出席することも厳しい状況にあります。役員スタッフに対しても、給与がでていることはなく、限られた時間を使っての無償で会議やイベント運営などをいままで行っています。

今現在残っている主な常駐スタッフは、限られた時間内のみで動ける主婦のみです。常駐スタッフも、助成金の中での有償ボランティア的な金額での勤務です。※会計の人件費に記載されているのは全て助成金からの支出となっております。私藤本も別の仕事をしながら、札幌本部長として対応可能な範囲で、お手伝いしているという状況です。状況的にも常駐して会の事務運営に携われるのは今年度が最後になりそうです。

各会員の方の声に合わせていくことも自助団体の特性かとも思いますので、支部の特徴、会の内部を会員同士で共有することで、それぞれの考えに立って、自助のカタチとは何かを、それぞれ立ち位置を決めて頂ければそれでいいのかと思います。

札幌本部は現実的にできることは、より活動を縮小し、運営の引継ぎを簡潔にすること。北海道に避難してきたという共通点でつながった方々の名簿がある、同窓会のよ

うな「みちのく会」をイメージしていますがいかがでしょうか。皆さまのご理解ご協力をお願い申し上げます。

支部からのコメント

・旭川支部(金谷 光英)

活動そのもの、この一年は手が回りませんでした。それは私自身の不徳の致すところで、まずは支部会員の皆さんへお詫びを申し上げます。

私の聞き及ぶ範囲ですが、仲が良い人たちが繋がり続けているそうですね。また、人生の判断で旭川から道内の他の土地へ移住を決めて動かれた方や、私自身が大きく仕事で関わった施設に会員さんご夫婦がいて、元気に仕事をされていたりすると聞き、元気をもらったりもしました。

みちのく会旭川支部に対して過大な期待を寄せられることがあります。私はこの団体そのものがクラウドのような存在へ変貌していくべきだと考えています。私見そのもので誠に恐縮ですが、申し述べたいことは以上に留まります。そのうち、集まれる人で集まりましょう。

皆様のご多幸と健康を祈念申し上げます。

・そらち支部(渡辺 歩)

そらち支部は発足当初より独自の支援を行ってきました。避難者の多くが原発事故による避難であること、また我が子の健康被害に対する不安などによる家族避難、母子避難であり、子どものためだけでなく、親御さんたちのためにも、また、生活を立て直すという意味においても避難させられた子どもたちへの支援やケアが欠かせないと考えたからです。従って、発足以来、多くの北海道支援者の方々にも多々ご厚意をいただき、また、支援をしていただいて今日まで活動を続けています。支援者の皆さんは「みちのく会そらち支部」に協力、支援してくださっているのです。

「避難した子どもたちが、北海道の地で道民の子どもたちと共に元気に成長する」をテーマに、子どもたちが苦難を乗り越えて健康で明るく元気に成長できるための支援を行ってきました。来年度の仮設住宅の提供終了や仕事や生活の安定など、まだまだ避難者を取り巻く問題は山積みですが、支援している子どもたちも笑顔で元気に頑張っていますし、その姿こそが我が子のために苦難の道を選んだ親御さんへの何よりのご褒美だと思います。

そらち支部の活動は、これからも継続させていく所存であり、北海道各地の自治体と協力した支援活動や移住・定住支援など、これからも新しい展開へと進めていく予定です。

またみちのく会の今後についてですが、本来みちのく会は避難した人たちがお互いに助け合う会であり、また支援してくださる支援者の方々とも協力し合って、被災避難

者が生活を立て直すために発足された自助団体であると認識しています。ただ本部、支部の運営がバラバラであったり、避難者による運営そのものが困難であったりと、これまでも上手に機能させることは非常に難しかったでしょうが、少なくとも被災地より北海道に避難してきた人たちの交流、つながりの場であったと思います。よって新たな北海道避難者がほとんどいなくなった現状においては、縮小もしくは休止は止むを得ないでしょう。

実際、ただでさえ自分のことだけで精いっぱい「避難者の皆さんによる運営」は非常に厳しいものがあると思いますし、従ってこれまでのスタッフの皆さんも大変なご苦勞をされていたと思います。ちゃんと機能している団体であれば先に記した、仮設住宅の提供終了や仕事や定住先の問題など自助、支援できることはまだまだあると思いますし、必要不可欠であるとも考えますが、団体自体にそれだけのキャパや能力が足りなければ休止も仕方ないと思います。

ただ現実には事故原発はまだまだ予断を許さず、収束も見えない中で新たな建設や再稼働もどんどん進み、放射能汚染による被曝障害の発症も事故後5年のこれらが本番という状況ですのでそらち支部としては「新たな避難者」に対する窓口だけは継続させるべきだと考えています。

・函館支部(鈴木 明広)

私的には、5年目を迎えるに当たって、未だに避難者各自が、めいめいに抱えている、離婚、住宅ローン、仕送り等の問題を解決ないし、解決の糸口さえ見いだせない状況では、残念ではあるけれども、どんなに繰り返言を言っても、誰も他その人間の生活を保障してくれるという篤志家になれないであろうから、「帰還」という選択をせざるをえない、いわば「振るい落とし」の曲がり角に直面しているとの思いがあります。

仮に1年、1年の住宅支援が確保できたとしても、果たしてそれが、将来の展望や希望が膨らむようなポジティブな要素になるかといえば、はなはだ疑問です。それは権利の獲得かもしれないが、結局一刻も早く避難者が自分を鼓舞(自律)し自立へ向かう道を妨げる、もろ刃の剣ともなりかねない。

一刻も早く道内での生活の基盤を築きそれを確固たるものにするためには、このような政治状況や自分たちに吹く逆風の中では、「自助努力」に依拠する部分がかなりの部分を占めていかなければ、道内では生き残れないのではないかと思います。「早く道民になりなさい」という突き放されたようで同郷の情に欠ける冷たい人間と批判、論難されがちだが、各自の理想(避難の権利・賠償訴訟で勝訴等)を実現するためには、何よりもまず日々の暮らしを確立していかなければ、「理想」は「画餅」と帰してしまいます。

既にみちのく会は、スローガンである「自助努力」に成すべきことは手を尽くしてきたと思います。端的に言えば使命は終わったと確信しています。残ることは、せいぜい所謂「社会資源」と言われる避難者に役立つツールについての情報を提供するくらいではないかと思います。また、道内主要都市にある支部の役目も終焉の時を迎えていると察せられる状況にあります。支部は、各地の寄り合いの取りまとめを「避難者県人会」のような緩やかな形で残して行けばよいのではないかと考えています。現時点では「万が一」位の低い可能性ですが、社会と世論が良い方向に激変して、つまり避難者側に「予算」がついて、「移住」「定住」に一役果たすべき時が来たら、いままで培ってきた経験を活かすために、みちのく会を「再起動」させればよいのではないかというおおらかな理想をもっています。それまでは今まで少しでも避難者のために役立つことをしたいと願ってきた「良心」の持ち主が集う新しい「県人会」のような形があれば、再会する楽しみが増えると思います。

(コメントより抜粋、全文はHP支部ページに掲載)

・胆振支部(二瓶 勇樹)

みちのく会の今後のあり方ということですが、胆振支部単体でみると、みんなそれぞれの生活がある程度成り立っているものと思われまます。ただ、口には出しませんが深いところでは満足できていない部分も多々あるはずで。それでも、何かに困っているとか、何かに迷っているところではないと思います。これまであまり積極的に集まったりもしていませんでしたから尚更なことなのかも知れません。どちらかというと、同窓会とかサークルとか、そのような割と軽い感じで集まっていました。今後も何事もなければそのようなスタイルでいく方針であります。

・恵庭支部(小林 靖)

震災から5年目となり、恵庭支部は発足より満2年となりました。

本来のみちのく会の姿は緊急事態の避難者同士の助け合いの場だと認識していますが、恵庭支部は発足が遅かったこともありまして、緊急事態はひとまず落ち着いた後で、恵庭の集会場として発足しました。

親睦会ではもちろん震災の苦勞話もあがりますが、それ以上に恵庭の観光地情報であったり、熊や鮭の話題があがります。それだけ私たち自身の中にも震災の風化と、道民としてのポジションが浸透しているのかと思うと、このまま何事も無く終わって欲しい、避難した我々が馬鹿だったんで終わってくれれば良いと考えます。

恵庭支部では来年度も引き続き親睦会を主たる活動として、ゆるゆると活動継続してまいりたいと思います。今後ともよろしく願います。

会長挨拶(本間)

「総会にあたり」

今年度、春に大きな決断をしてみちのく会事務所の常駐ではなく、震災後札幌での就職を決めた会社に戻ることにしました。この間、役員、スタッフ、会員の皆様には、会の運営にあたり多大なるご協力をいただきまして大変感謝しております。私自身、会長職ではありますが、札幌本部長にほとんどの業務を委ねている状況で、年々変化していく避難者を取り巻く現状に、大きく苦勞をかけていると思っています。みちのく会を通してこうして集まる機会は、私にとってもほっとする場でもあります。震災から月日が経つほど、それぞれの状況はますます多様化していると思いますが、いろいろな現状にあること自体を現実として、それぞれの生活の中で必要と思われることを、みちのく会のネットワークを通して利用していただけたいと思っています。

今年度行っている会員さんへの電話アンケートも引き続き行いますので、ご意見等ございましたら、お聞かせいただければと思っています。会の次年度の方向性がある程度見通しが立てられるのが、年明け1月頃になると思いますが、何らかの形で会は続行していく所存です。今後とも当事者の会として皆様との交流ができる場でお会いできることを楽しみにしています。

みちのく会 会長 本間紀伊子

BOSAIBOOK完成!

みちのく会札幌発の企画で、小学生低学年向けの防災本「BOSAIBOOK」が完成しました。防災対策がまとめられた冊子に、災害を体験した当事者(みちのく会会員)の声を載せた形式となっています。気付きの文章を書いてくださった皆さま、ご協力ありがとうございました。このBOSAIBOOKは、白石区にある札幌市白石消防署に併設されている札幌市防災センターで配布されています。



みちのく会(札幌)今後の予定

■12月5日(土) ハンドクラフト講座(オリジナルトートバッグ作り)

好きな柄を選んで世界に一つだけのオリジナルトートバッグを作りませんか。お弁当箱が入るサイズで、クリスマスプレゼントにもおススメ!小学生以下のお子さんには、冬休みの自由工作にぴったりのオリジナルマグネット作りを用意します。



■1月15日(金) 冬休み書初め教室

※いずれも月寒事務所で行います。時間・参加費等の詳細は後日メーリングリストにてご案内します。

会員の皆さまにヒアリングアンケート実施中です
みちのく会事務所(011-826-4092)より順次お電話を差し上げておりますので、ご協力をお願い致します。また、なかなか平日昼間の電話対応が難しいという方には、メールやFAXでの回答も受け付けます。上記の項目についてお答えいただき、お名前と連絡先を添えて、みちのく会までお送りください。

みちのく会の問い合わせ先はこちら

■みちのく会 札幌本部

札幌月寒(つきさむ)事務所

住所: 〒062-0021 札幌市豊平区月寒西1条7丁目1-11

Tel・Fax: 011-826-4092

HP: <http://michinokukai.info/>

E-mail: office@michinokukai.info

この会報(みちのく会通信)
発行は、タケダ・赤い羽根 広域避難者支援プログラム
2015の助成により行っています。

タケダ・赤い羽根

広域避難者
支援プログラム